

第三回 重症者ホームひさやま 地域連携推進会議 記録

日時:2026(令和 8)年 6 月 16 日(火) 10:30~11:30

会場:重症者ホームひさやま リビング

出席者:委員 8 名(地域代表者、グループホーム運営事業者、行政担当者、ホーム保護者会代表、ホーム入居者)

陣内晶子(重症者ホームひさやま・療育課長・サビ管)、金子政彦(重症者ホームひさやま・施設長)

欠席者:委員 1 名

(敬称略)

【目的】

- 利用者と地域との関係作り
- 地域の方々への施設や利用者に関する理解の促進
- サービスの透明性・質の確保
- 利用者の権利擁護

【プログラム・質疑応答】

時間	プログラム	資料	説明	参加者からのご意見
10:00	受付			
10:30~ (5分)	挨拶・ 新構成員ご紹介		金子	・A 委員を紹介。 ・B 委員を紹介。
10:35~ (15分)	運営報告	別紙 スライド	陣内	<2025 年度活動報告> ・入居者 C さんの一年間 ・入居者 D さんの一年間
10:50~ (5分)	事故報告	別紙	陣内	・事故別棒グラフ ・月別事故件数棒グラフ
10:55~ (5分)	経営報告	別紙	金子	<収支の状況> ・事業活動計算書
11:00~ (30分)	構成員より 質疑応答・ 意見交換		陣内	(E 委員)「ホームで新しいことにチャレンジしていることが分かり、うれしい。」 「運営面では、赤字が続いていることが心配で、心苦しい。なにかできることはないか、心苦しく思う。」 「地域活動の推進で地域の方々と同様になれることを期待している。」 (B 委員)「運営を支える基金など、補助はあるのか？」 (金子)「公的な補助金は受けていない。」 (A 委員)「グループホームの運営内容を初めて知った。」 「手厚い支援がなされていることが分かった。」 (F 委員)「利用者の笑顔が多いことが印象的」 「職員の熱気がすごい。」 「参考になる。」

			<p>(G 委員)「病院併設の施設ならではの経営の大変さがあるのではないか。」</p> <p>「夜間の支援体制の必要性や必要な人件費に対するしわ寄せがきていることなど、訴える必要があるのではないか。」</p> <p>(H 委員)「笑顔が多い。」</p> <p>「やりがいの多い職場だと感じる。」</p> <p>「必要などころに、必要な費用がまかなわれるようになってほしい。」</p> <p>(I 委員)「短期入所利用希望者が多く、現在 1~2 か月待ちとなっている。短期入所利用希望者がどのような流れで、利用開始になるのか知りたい。」</p> <p>(陣内)「園外来を通しての申し込みとなる。医師診察後に、ホームか病棟か、医療度で判断される。一泊お試し利用から始まる。」</p> <p>(F 委員)「私たちは、短期入所は行っていない。体験利用の仕組みを運用している。」</p> <p>(G 委員)「天気の良い日の利用者の散歩など、近所の人たちは見ている。久山は、散歩するにはよい場所。東久原の運動会では、パン食い競争にも参加してもらった。」</p> <p>(陣内)「近所の子どもたちとのふれあいも生まれている。」</p>
11:30	終了		希望者に施設内見学を実施。

【次回日程】

- 次回、第四回 地域連携推進会議
- 2027(令和 9)年 6 月 15 日(火)10:30~11:30

記録:金子政彦